

平成29年度 今治市さざなみ園 指定管理者モニタリング結果

施設名	今治市さざなみ園
所在地	今治市大三島町宮浦336
指定管理者	<p>名 称 社会福祉法人で・ふ・か</p> <p>代表者 理事長 真鍋 誠子</p> <p>住 所 今治市常盤町5丁目2-39</p>
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理業務の課題ごとに、指定管理者による自己評価及び市による評価結果を取りまとめました。</p>
担当部課 (問合せ先)	<p>健康福祉部 障がい福祉課</p> <p>TEL: 0898-36-1527</p> <p>E-mail: syougai-fukus@imabari-city.jp</p>

評価内容

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
総則	B	<p>さざなみ園の基本方針や地域において担う役割等について職員間で共有しサービス提供に努めました。地域住民との交流や安定した作業が提供できるよう積極的に取り組みました。サービスの少ない島嶼部において、様々なニーズに応えられるよう職員のスキルアップに努めましたが、実績を上げるまでには至りませんでした。</p>	B	<p>職員は施設の設置目的や管理運営方針等を理解して運営しています。また、掲示板に掲示し利用者へも周知し、理解を得ています。</p>
利用状況	B	<p>これまでの利用日以外で通所日を増やすことが可能な方、また現行の送迎場所での公用車の利用が可能な方を対象に数名の利用回数を増やすことに取り組みました。その結果1日平均利用者数が増加しました。見学者数は少なかったものの登録につながり、利用者数も増加しました。今後関係機関と連携し福祉サービスを必要としておられる方に提供できるよう努めて参ります。</p>	B	<p>昨年度に比べ、登録者数、利用者ともに増加しています。登録者数について、連携する医療機関等からの紹介により増員となっており、日頃からの連携が繋がった状況です。また、送迎方法を見直すことで、もっと通所したいという利用者のニーズに対応したことが利用者数増加という結果に表れています。今後はさらなる利用者増加に向けて、またサロンの利用も増えるような取り組みに期待します。</p>

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
事業収支	B	<p>支出の割合では人件費率が大きくアップしています。内訳に関しては職員給料、非常勤職員給与、法定福利費です。前年度と比較すると正規雇用職員増加の為です。事務費に関しては旅費交通費、燃料費、修繕費等車両に関する支出が前年度に比べ増加しています。利用者あたり管理コストのパーセンテージがダウンしているのは今年度利用者数が大きく伸びたためです。この点は次年度に関しても引き継いでいきたいと思っています。</p>	B	<p>島嶼部における人員確保が難しいことから、陸地部からの正職員対応が支出に影響しております。また、送迎方法変更により車両関係の費用増が見受けられます。島嶼部唯一の精神障がい者の施設であるため、送迎必須となる環境となりますので、必要経費としての支出増は仕方のない部分であります。利用者一人あたりの管理コストが次年度さらに改善されるような対応をよろしくお願いします。</p>
管理運営体制	A	<p>職員間で情報を共有し細やかな支援ができるよう努めました。施設内研修においては、既定の概念にとらわれず障がい者の視点に合わせた指導方法がなぜ必要なのかを学び、また外部研修においては福祉サービスを提供するうえで必要な知識や意識の向上に努めました。</p>	B	<p>職員の配置は正職員を主として対応できています。また、精神保健福祉士や介護福祉士等利用者の対応をする上で有用な資格所持者が配置されています。研修について、人員配置が少ない為、研修等に割ける人員が不足している状況です。法人内で流動的な職員体制等検討をお願いします。</p>
管理運営業務	A	<p>管理業務においては、仕様書に定められた基準に従い行うことができたが、回数等については具体的な回数が利用者の状況に応じて変わる部分があり的確に行うことが出来ない所がありました。植栽管理、清掃管理においては、裏庭スペースを中心に利用者が積極的に取り組む場面が見られました。また、サロン内での飲食物提供に際し、法令に基づき必要な手続きを行いました。</p>	A	<p>仕様書に定められた基準に従い管理できています。清掃業務では、利用者も作業終了後に職員と一緒に清掃するなど理解を得ています。また、植栽管理でも利用者が参加したり、ワークショップとして裏庭作りをしたりと単なる管理業務としてではなく、広く人を巻き込んでイベントとして楽しんでできています。引き続き適正な施設管理をお願いします。</p>
利用業務	B	<p>登録者数及び一日平均利用者数が目標達成に至りませんでした。しかし、昨年度より一日平均利用者数が大幅に増加しました(昨年度5.5人)。送迎出発時間や送迎ルートの見直しを行い、これまでの利用日以外で通所日を増やす事が可能になった結果だと考えられます。また、イベントへの参加に関しては、関係機関と連携し参加者数が目標を上回る数値に達しましたが、利用促進には至っていません。現在登録者のうち実利用できていない方の通所再開を目指しています。目標値が高かったことも要因の一つと考えられます。今後も医療機関等連携を図り、向上していきたいと考えています。</p>	B	<p>登録者及び一日平均利用者数について、目標達成に至らなかったものの、昨年度より増加しています。医療機関との連携が今回の登録に繋がり、送迎方法の変更や、イベント周知として島内回覧板を活用したり、法人情報誌を送付するなどの結果が利用者数の増加に結び付いたと思われます。目標値が高い状況ですが、今年度の状況を鑑みるに、今後達成可能であると思われるので、引き続き取り組みをお願いします。</p>
その他業務	A	<p>イベント開催時にできるだけ閉所することなく事業を開催することができ、利用者の増員に努めました。また、利用者及び職員の多くが大三島以外から通っていることから、急激な天候の変化に留意し、必要に応じては所轄課と相談し早期に対応することで事故につながらないよう努めました。</p>	B	<p>緊急時等マニュアルならびに震災や火災に対するマニュアルは作成されており、訓練も行われております。ただ、津波、高潮、強風、土砂崩れ等直接的ではなくても施設、利用者へ影響を与える自然現象もあります。それぞれの事案についての検討をお願いします。警報発令時の対応について、閉所判断と関係者への連絡は速やかにできています。引き続き利用者・施設職員の安全第一に判断をお願いします。</p>
修繕業務	A	<p>利用者の安全を確保する為また、安全に送迎できるよう車の点検を行い、必要に応じて部品交換等の修理を行いました。今年度は市によるさまざまな園床修繕工事を実施させていただきました。今後もサロン活動を充実させ地域住民と障がい者の触れ合う機会が増えることにより利用者が安心・安全な場所において日中過ごせるように計画的に修繕していきます。不具合が生じる前に事前に市と協議を行い修繕に努めて参ります。</p>	B	<p>利用者の安全のために、送迎車両の整備を確実に行っております。施設の修繕について、応急的な対応はしっかりとできていますが、計画的な対応について不十分な点が見受けられます。日頃の点検を活かし、修繕計画書の作成や事前の対応をお願いします。</p>

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
備品管理業務	A	今後も利用者の利便性・安全性を考慮し、運営に必要な備品について随時検討します。	B	備品の管理について、備品台帳の管理を適切に行っています。アンケート等を活用し利用者ニーズを把握する等ご検討ください。
行政財産の目的外使用許可手続業務	-	該当なし。	-	該当ありません。
自主事業	A	<p>昨年度完成した畑スペースを神奈川大学学生や関係機関の協力を得、裏庭として完成することが出来ました。花壇に花を咲かせることが可能となり遅咲きのヒマワリを咲かせた「ひまわりウィーク」を開催しサロン来客数増加に繋げることが出来ました。</p> <p>MAYAMAXX氏を招聘してのイベントでは、地元小学生や高校生の多数の参加もあり、さざなみ園及び交流スペースサロンの周知につながりました。</p> <p>3373マンドリンコンサートでは、さざなみ園利用者が合奏を行い演奏者とのコラボレーションを披露することが出来ました。演奏当日だけでなく1か月余りの練習の時間も利用者にとって新たな挑戦となり、達成感や自信につなげることが出来ました。</p>	A	<p>H27、H28年度に実施した新ふるさとづくり総合支援事業でできた関係を活かし、神奈川大学学生とともにワークショップを行い裏庭を完成、それだけで終わることなく次のイベントとして花を植え、サロンではMAYAMAXX氏を招聘したり、マンドリンコンサートを開くなど、利用者と地域の人を繋げています。他ではないさざなみ園独自の事業により、施設の魅力を引き出し、島嶼部の関係機関とも連携を深め重要な存在となっています。引き続き関係者を巻き込み、さざなみ園の魅力を引き出していただきますようお願いいたします。</p>
地域団体との連携	A	<p>地元中学生福祉体験においては普段接することの少ない世代の方たちと交流を持ち、楽しい時間を過ごすことが出来ました。また夏休み時期を利用してひまわりの種まきにも参加いただき、利用者との交流を深めることが出来ました。ひまわりの開花時期には多くの近隣住民から声をかけていただき、地域活性化にも寄与しました。</p> <p>また、地域交流・利用者促進を目的としたしゃべり場の開催では、地元の民生委員児童委員らの協力を得、他団体からの参加者にも交流していただくことができました。利用が遠のいていたさざなみ園登録者も参加され、喜んでいただきました。今後も様々な地域団体との連携・協力を得ることで、障がい者に対する理解が深まるよう努めます。</p>	A	<p>さざなみ園においての活動のみならず、しゃべり場等施設外へも積極的に出ていき活動していますので、福祉に関係する機関では島嶼部において十分な関りが持っています。一方で、住民の方との関りになりますと、近隣住民の方であればイベントを通じ認知度が高まっていますが、町中と川を挟んだ立地条件もあり、施設の場所や活動内容に対する認知度が低いように見受けられます。参道清掃以外にも地域と関われる機会を創出し、さらなる地域団体との連携に期待します。</p>
利用者アンケート	A	<p>利用頻度については、利用回数を増やすことが出来た利用者もあり、昨年度より満足度の高い結果となりました。</p> <p>工賃については、除草作業の継続・出張販売といった取り組みの甲斐もあり、賞与を支給することができ実質向上することができました。</p> <p>今後の課題として、アンケートの実施方法の検討(電話によるもの、用紙で実施するもの等)、またイベント時においてアンケートを実施していく、要望を開示し、管理者において分析を行っていきます。</p>	B	<p>利用者からのアンケートにより職員対応が5割超の満足度となっています。不満は特にならない状況ですので、この状況を少しずつ伸ばせるようお願いいたします。工賃について、もっと欲しいとの意見が多いですが、仕事の受注状況や売り上げ、経費と関係してきますので、無理のない範囲で工賃向上を目指してください。今後アンケートの機会を増加されるかと思いますが、結果の公表や、回収率の向上、潜在的な意見を引き出せるような実施方法・質問等ご検討ください。</p>
事故・苦情	A	<p>利用者の安全第一と人権の尊重に努めるために職員の意識向上に努めました。</p> <p>特に送迎については緊急事態に備えてすぐに連絡が取れるよう携帯電話を使用し、職員の体調管理を万全にし安全運転履行にて行うことに努めました。</p> <p>また、異常気象で天候が不安定な場合は、送迎を中止するなど安全に配慮しました。</p> <p>また、警報発令時は単身生活者及び高齢者との同居世帯に連絡し安否確認をしました。</p>	A	<p>利用者の安全に配慮し、送迎体制や警報に対する対応がしっかりとなされています。また、安否確認をするなど独自の対応を素晴らしく思います。アンケート結果でも不満がない状況が示す通り、苦情が一切ないため、苦情に対する対応整備が法人対応のみとなっています。使う機会がないマニュアルですが、苦情に対する施設個別の対応の仕方や公表もご一考ください。</p>
指定管理者の経営状態			<p>貸借対照表、事業活動計算書については、法令及び定款に従い、適正に作成されていると認められました。指定管理者の経営状況については、財務諸表から割り出した経営分析指標において、特に気になる数値はなく、指定施設の管理を安定して行う物的能力を有していると認められました。</p>	

総合コメント(市)

島嶼部において唯一の精神障がい者が通所可能な作業所であり、島嶼部で重要な拠点となっています。大島、伯方島、大三島の利用者が通所しやすい環境を作るため、送迎を実施し利用者の足を確保しています。陸地部に比べ施設運営が大変な立地条件ではありますが、関係機関と協力し連携を図っています。新ふるさとづくり事業など、新しいことへ取組み障がい者施設の枠組みを超えて地域活性化へ繋がる活動を行うなど、他とは違う施設としての存在感を示しています。引き続き、島嶼部における作業所として、また地域交流の場としての活躍を期待します。

指定管理者選定審議会による総合評価

B

島嶼部であるため内職の仕事が少なく受け身では活動できない中、MAYAMAXX氏にご協力いただき、施設内の至る所に絵が描かれています。原画からペンダントブローチ制作に挑戦するなどしていますので、通販等も検討するなどPR活動により一層力を入れることが大事に思います。また、芸術繋がりで大三島美術館等との連携も可能と考えます。そのほか、耕作放棄地を利用し、農業に挑戦するなど一つの方向に捕らわれることなく事業運営をお願いします。指定管理開始より10年、法人全体でさざなみ園の事業運営に取り組み、島嶼部における拠点として障がい者に寄り添った施設にさせていただいています。今後もますます存在感を発揮するよう期待します。